



渡り鳥

藤澤 桓夫

これらの渡り鳥は一つのたり泣いたりするものなことを工場のなかに長いこと集めてきたがどうも見えなかつた。その間にストライキの旋風を巻き起こすことに成功した。彼等は彼等の残した卵がいつか力強い羽搏いて飛び立つ日の来ることを堅く信じてゐる。

彼等は彼等の残した卵がいつか力強い羽搏いて飛び立つ日の来ることを堅く信じてゐる。

彼等は彼等の残した卵がいつか力強い羽搏いて飛び立つ日の来ることを堅く信じてゐる。

彼等は彼等の残した卵がいつか力強い羽搏いて飛び立つ日の来ることを堅く信じてゐる。

最近、一人の進歩的な大學生は彼のすべての肉身を、音信を絶つて完全な行動期に入つてしまつた。

最近、一人の進歩的な大學生は彼のすべての肉身を、音信を絶つて完全な行動期に入つてしまつた。

大衆第一 第三日曜
休刊 廿二日、廿三日
定額 五円 郵税 五割
廣告料 二行半(指定) 五割増
印刷 別紙
運送 龍輔
發行所 警報新聞社
〒三三三 三浦市

六月の風景

高野 牧夫

女は白い素足の儘で何處までも進んでゐた。草つば朝露は逃げる様に地上の懷をまきつてゐた。蛙は一杯に満ちた水たまりの去年の蛙にも見知らぬ旅の仲間にも限なき挨拶を開始した。

女は白い素足の儘で何處までも進んでゐた。草つば朝露は逃げる様に地上の懷をまきつてゐた。蛙は一杯に満ちた水たまりの去年の蛙にも見知らぬ旅の仲間にも限なき挨拶を開始した。

「イヤ、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。

「イヤ、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。

「お前、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。

「お前、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。



飛ぶ超ゆる者

小 説

「お前、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。

「お前、どうなすつたんで、姉さん？」と男は思ひ出した。男は思ひ出した。

生徒大募集
七月一日新學期開始!!
甲種運轉手たらんことを本校に來れ。茲に七月一日の大募集を開始せり。

御禮に併せて

平町四軒町

這般近火に際し弊館も類焼せる如く傳へられ種々御芳情を賜り候へども右は全くの誤傳にして各位の御庇護により幸ひ類焼を免れ平常通り營業致し候間何卒御心置きなく倍舊の御愛顧を懇願仕候。

昭和四年六月
平町才道小路
ライト寫眞館
電話八四七

水水開業廣告
弊店事蒲鉾製造販賣を開業以來各位の特別なる御引立を蒙り候段厚く御禮申上候夏期中は蒲鉾製造を休み水販賣に従事する事相成申候につき何卒御用命御引立の程願上候。

平町一丁目
藤 寅
電話百四十一番

植田町本町
前田醫院
入院隨時... 電一二四番

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乗心地の好い
昭和タクシーへ
電話は 三四三番

梅毒母と體主母を

山野邊藥局

梅毒母と體主母を
切らず注射せず治す
梅毒母と體主母を切らず注射せず治す

腸胃科 専門
皮膚科 専門
院醫科腸胃性村松
療 (番七〇一話電町南平)

正札堂
小學生 二十圓
中學生 三十圓
一年生 四十圓
二年生 五十圓
三年生 六十圓
四年生 七十圓
五年生 八十圓

新レコード着荷
コロンビア邦樂レコード
現代劇 水谷八重子
受難華 柳 永二郎
映畫小唄 大河内 傳次郎
映畫小唄 其 他
映畫小唄 川崎 樹雄
映畫小唄 島田晴雄氏指揮
松竹管絃樂團伴奏
燃ゆるの唄 一枚
追々夏らしい気分になつて参りました。此の機會に於きまして弊店では右の如き特別發賣を致す事に致しました。何卒御用命下さる様。

平三 大谷時計病院
電話 一九番

新築落成

大和田醫院

新築落成
耳鼻咽喉科 専門
氣管食道科 専門
平町南町(舊診療所)電話一七〇番
大和田醫院
自炊の便あり

安全第一
勸業債券 兩替
復興債券 金融
公債其他 取扱
質物一般 取扱
店商井田多
町工大町平

赤心堂病院
外科 花柳科
婦人科 産科
内科 皮膚科
光線科
器械新設 体温計無料検査
指針販賣所 西村屋藥舖
電話 三番

